

2021年春のダイヤ改正でJRおよび大手民鉄で終電時刻の繰り上げが実施されると発表されています。この背景には、新型コロナウイルス感染症の流行に起因した深夜時間帯の利用減少のほか、労働人口減少にともなう夜間の作業時間の確保が課題となっていることがうかがえます。

今月号では、「軌道の弱点箇所を解消する」と題して、列車を安全に走行させるために日々酷使されているレール、まくらぎやバラスト道床など軌道を構成する部材の劣化に対する維持管理に関する最新の取り組みを紹介しました。多頻度、かつ高速で走行する列車を支える軌道は、長期間の使用にともない劣化

や損傷など弱点箇所となる場合があります。軌道を維持するために、これまで多くの労力が費やされてきましたが、これからは安全性を考慮しながらも省力化を視野に入れた新しい維持管理が必要と考えます。

来月号の特集は、「鉄道を支えるリアルタイム防災情報」をお届けします。鉄道総研では、鉄道の安全性をさらに高めるため、地震や雨などの自然外力が鉄道に与える影響をリアルタイムで監視・評価することを目指した研究開発に取り組んでいます。どうぞ、ご期待ください。(Y.T.)